

はてなをもとめて、自ら学びに向かう力の育成～ふりかえりを通してつながる学び～ 目安表

	基礎段階（教師の支援多め）		自己調整段階		発展段階	よりよく生きるために
観点	1	2	3	4	5	
問いを生む	気づいたことや分かったことを具体的に言える。	素朴な疑問（「なに」「どこ」など）を見つけ、言ったり書いたりできる。	複数の資料を基に、比較したり関係づけたりしながら、自分で問い（「なぜ」「どのように」など）をつくることができる。	立てた問いを整理、分類し、より調べがいのある問いへと絞り込んだり、問いの質を高めたりできる。	立てた問いを検討し、より本質的な問いや新たな課題へと発展させることができる。	自分の問いを社会や未来などと結びつけ、新たな価値を生み出す問いを創造できる。
めあて	教師が示しためあてを理解し、学習の方向を意識して活動できる。	教師や友達と話し合いながら、問いや既習事項をもとに学習のめあてを考えることができる。	教師や友達と話し合いながら決めためあてに加え、自分なりのめあてをもつことができる。	学習状況に応じて、めあてをとらえ直したり修正したりしながら主体的、探究的に学習を進めることができる。	これまでの学びや、経験と結びつけながら、自分にとってより適切なめあてを発見し、次の学びや課題解決にいかすことができる。	学ぶ意味や価値を見いだし、自分や仲間、社会とのつながりを意識しためあてを設定できる。
見通す（計画する）	教師が示した学習計画や手順を理解し、それに沿って活動できる。	課題解決や目標達成のために、何をすべきか大まかな手順を考えることができる。	課題解決に向けて、必要な情報や学び方を考え、簡単な計画（手順や時間配分）を立てることができる。	過去の学習経験や振り返りを基に、複数の解決方法を比較し、選んで計画を立てたり、修正したりできる。	課題の複雑さや条件を考慮し、複数の方法を戦略的に組み合わせた、詳細な計画を立てることができる。	不測の事態を想定し、柔軟に計画を再構築しながら、探究プロセス全体を自己管理できる。
実行する	教師に指示された情報源（教科書など）を使い、情報を集めたり作業したりできる。	複数の与えられた情報源から、必要な情報を探し出し、ノートなどに書き出すことができる。	必要な情報を得るために、自ら情報源（本、人、インターネットなど）を探し、目的別に情報を整理できる。	集めた情報を比較・分析し、情報の重要度や信頼性を判断しながら取捨選択できる。分からないことは自ら質問・調査することができる。	複数の情報を統合し、自分なりの考えを構築できる。	独自の実験や調査を計画・実行し、新たな知見を生み出す。探究の過程や成果を論理的に表現・発信できる。
振り返る	学習活動の中で、自分が「できたこと」「がんばったこと」を具体的に挙げるができる。	めあてをもとに、教師が示した観点（ルーブリックなど）に沿って、自分の活動や成果を自己評価できる。	自己評価の結果について、「なぜできたか」「なぜできなかったか」の理由を、具体的な活動と結びつけて説明できる。	自分の学びの成果や課題を客観的に分析し、次に取り組むべきことを具体的に設定できる。	仲間との対話を通して、自分の考えや学びを客観視し、多角的な視点から学びの価値や意味を捉え直すことができる。	探究のプロセス全体（問い、めあて、計画、実行、表現）を俯瞰して評価し、自分自身の学び方や思考の特性をメタ認知し、次の問いや学びへとつなげることができる。

